

大桑・辰巳用水コース

風そよぐ辰巳用水「悠久の流れと今に伝える水の叙情」

金沢の歴史的文化遺産ともいえる辰巳用水。約12Kmにもおよぶ清らかな水の流れが、人々の暮らしに潤いと安らぎをあたえ、歴史や文化に足跡を残すだけでなく、まちなみにも独特な景観美を築き上げています。

日吉神社 → 大桑橋 → 大桑層の貝化石・おう穴 → えんしょう坂 →
涌波堤公園 → 辰巳用水遊歩道 → 八幡神社



●日吉神社の樹林

小立野通りから三口新町方面へ進みます。

鬱蒼とした木々に覆われた日吉神社があらわれます。参道右の大ケヤキは、樹高35m、幹周5mにもおよぶ巨木で、拜殿左のスギとともに、この神社の樹林を象徴しています。35本の大木と200本からなる低木が、緑の空間にさらなる緑陰を生成し、社叢林しゃそうりんの風格を効果的に導き出しています。

●大桑橋かいわい

緩やかに続く通りから県道野田・上野線沿いを進みます。大桑橋から犀川左岸を上流方面に向かいます。

この界限は、桃や梨畑、田園が広がる長閑なのどか一帯です。犀川沿いでは、5～6月頃になると、ニセアカシアが多くみられ、白い花が穂状に垂れて開き、辺りに甘い香りが漂います。野鳥は、サギ類などの水鳥だけでなく、右岸の崖地林から山野の鳥も飛来します。

●貝化石とおう穴

河原に下ります。犀川では、貝化石の宝庫として全国的にも有名な「大桑層」(おんまそう)がみられます。この地層は、今からおよそ150万年前～80万年前のものとなされ、貝化石が厚さ数cm程度に密集したり、散在したりする層となっており、ヨコヤマホタテガイ、アカガイなど約200種類の貝化石がみつかっています。



また、象の化石(アケボノゾウ)も発見されました。

砂岩からなる河床には、「おう穴」と呼ばれる直径10cm程度の丸い穴が数多くみられます。流れの渦によってできたくぼみに小石が入り込み、深くえぐったものです。

●河岸段丘の眺望

貝化石産地にちなんで名づけられた「大桑貝殻橋」を渡り、大桑簡易野球場横から涌波方面に抜ける急な坂を上ります。坂の途中からは、犀川左岸の河岸段丘が広く見渡せます。何段にも積み上げられたように見える段丘は、高いものほど古い時代にできたものです。

●えんしょう坂から涌波堤公園へ

犀川大通りを渡り、小立野台地沿いに向かって歩を進めます。

えんしょう坂は、木製の曲がりくねった階段で、台地上の土清水方面に続いています。この坂は、藩政時代、現在の涌波一带にあった藩の蔵に五箇山からの煙硝えんしょう（発火の時に煙の出る火薬）を運ぶ時に使われていたことから名がつけられたとされています。坂近くには、辰巳用水の分水が流れ込む涌波堤公園。かつてこの付近に加賀藩の火薬製造所や火薬蔵があったそうです。

●辰巳用水遊歩道

辰巳用水は、三代藩主前田利常が、寛永9年（1632）に板屋兵四郎に設計させたもので、約12Kmにもおよぶ用水を、わずか1年たらずで完成させました。藩政時代にもかかわらず、長い導水トンネルが掘られていること、勾配が200分の1を保っていること、低地から高地に水を引き上げるための逆サイフォン工法を用いていることなど、極めて高く素晴らしい技術で造られていることは、他には例をみません。



その用水に沿って遊歩道が続いています。

辰巳用水遊歩道は、大桑町～錦町の間約2Km、用水景観を楽しむだけでなく、野鳥や昆虫とのふれあいや野田山の眺望などが満喫できる自然豊かな散策路です。果樹園が広がり、ケヤキをはじめとする雑木林が日差しを遮り、そしてモウソウチクが深緑のトンネルを描き出す。風景もさまざまに変化をみせ、季節によっても趣おもむきを変えます。シジュウカラが飛び交い、夏の夕刻にはヒグラシが涼しげに鳴き、クツワムシが秋の気配を知らせる。特に、初夏の夜を彩るホタルの明滅する様は、静かに流れゆく漆黒の水面に、線香花火を映し出したかのように情緒的です。

●八幡神社の樹林

遊歩道終点近く、右手の細い階段を上り、小立野通りを横断します。

八幡神社の樹林は、スギ、エノキ、シラカシなどの大木が境内を覆い尽くし、金沢の代表的な鎮守の森といえます。